

エンパワーするNGO



京都 YWCA

3
2024

古都に咲いて100年

京都 YWCA100 周年記念シンポジウム 排除無く、誰もが花咲く社会 ～多世代・多文化ふれあいコミュニティの実現～

京都 YWCA100 周年記念事業の締め括りとして、公開シンポジウム「排除無く、誰もが花咲く社会～多世代・多文化ふれあいコミュニティの実現～」が1月27日に京都市男女共同参画センターウィングス京都で開催されました。

障がいや難病と向き合う人を多数雇用する花屋、ローランズを運営する福寿満希さんが基調講演を行いました。

福寿さんが20代で起業して障がい者雇用に取り組んだのは、学生時代に教育実習で特別支援学校を訪れた時に、子どもたちが働く夢を持っていることに触れたのがきっかけでした。現在スタッフ80名のうちの9割が女性、55名が障がいや難病の当事者で、ベテランスタッフを中心に数人のチームで仕事をし、業務を細分化して誰もが働ける環境を整備しています。

当事者と仕事をする過程で必要となった就労継続支援や、グループホームの運営など福祉事業も展開し、「障がいを売りにしない」ことをモットーとしています。さらに、企業単独ではなく、複数の企業がチームを組んで障がい者雇用を生み出すシステムを日本で初めて創りました。

「自分にとっての当たり前が誰かには当たり前でない」ことに気づき、「みんな」からこぼれ落ちてしまう人も「みんなみんなみんな咲け」と、人を咲かせる花屋ローランズの取組みに会場から惜しみない拍手が送られました。

続いて別所加恵会長から京都 YWCA100 年の歩みと、現在行っている「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業の説明がありました。その事業の一環として、山本佳奈さんが自立援助ホーム「カルーナ」と生きづらさを抱えた若

者のための居場所「Yここ Kitchen」について、御前麻里さんがボランティアが主体となって運営する「うららかふえ」と若者就職支援について報告しました。また、張善花さんが30年以上続く滞日外国人の支援について、東上菜々子さんが若い人に自分らしいリーダーシップを発揮するためのワークショップについて紹介しました。

他団体とコラボして行政を動かし、 「誰もが花咲く社会」へ向けて行動する

最後にマーサ・メンセンディークさんを座長に福寿さんと京都 YWCA からの発題者によるトーク・セッションを行いました。企業や他団体とコラボして対価交換できるものを持ち、必要性を伝え続けて行政を動かすことが「持続可能な活動・事業」に繋がる、という新たな視点が得られました。企業と非営利組織という違いを超え、個々が多様性を認め合い誰かのために行動することで包括的に支援の輪が広がり、人々の幸福に資する可能性が示唆されました。

このシンポジウムは公益財団法人京都市男女共同参画推進協会との共催で京都府女性活躍応援事業補助金対象事業でしたが、性別や世代、文化、障がいの有無などのあらゆる垣根を越え、女性が自分らしいリーダーシップを発揮することが「誰もが花咲く社会」の実現につながるというメッセージをもらい、これからの100年に向けて希望を感じることができました。

(平野 富希)



福寿満希さんの基調講演（ウィングス京都にて）



トーク・セッションの様子

日本 YWCA 地域連携事業 (Local Action) 第 3 期 「多様な人々が集う居場所づくり」

第 3 期 LA「多様な人々が集う居場所づくり」では、食を介在させた居場所事業を行う京都 YWCA と横浜 YWCA が、居場所づくりの準備を進める福岡 YWCA と協働し、セーフスペースづくりへの理解を深めながら、持続可能な事業の運営を目指し課題解決に取り組んでいる。

11 月の横浜訪問に続き、1 月 26 日に京都 YWCA 訪問プログラムを実施した（横浜 4 名、福岡 3 名、京都 11 名が参加）。ヴォーリズ建築であるサマリア館の中のうららかふえで提供した手話サークルのランチは、品数も彩りも豊かで大変好評だった。交流会では、うららかふえと若者の居場所「Yここ Kitchen」の概要説明を行い、その後「会員活動からみるカフェ活用」、「事業からみるカフェ活用」、「運営面からみるカフェ」の 3 つのテーマに分け、意見交換を行った。

話せる場があることの大切さ、職員だけではなく会員がもつ多彩な力をもっと取り入れたいという意見、収支や担い手に関する共通課題を再確認した。また、グーグル検索で表示されるカフェの評価や口コミをお互いに記載し合い「集客につなげよう」というアイデアがでたりと、全国に仲間がいる強みを感じる場となった。

その後、NPO 法人 happiness が運営するまちライブラリー併設のカフェ「and happiness」を訪問。理事長の宇野明香さんにお話を伺った。2018 年より子ども食堂を中心に、多世代が集える場を運営しているという。南区の子ども食堂が一堂に会し、4000 人規模のお祭りを開催する等、地域や企業を巻き込みながら運営していることが特徴的だった。

翌日にはオプションプログラムとして、バザールカフェ訪問と京都 YWCA 100 周年記念公開シンポジウムに 3 名の方に参加いただいた。

今回は 3 月に福岡 YWCA へ見学に伺う。誰もが安心して過ごせるセーフスペースづくりに向けて、それぞれがもつリーダーシップを発揮し、更なる展開に向けて準備を進めたい。



(藤原 聖帆)

団地の一角にある「and happiness」は開放的で心地よいカフェでした

2.11 集会

交差する差別と闘う女性達の 100 年—婦人水平社設立 100 年

2 月 17 日、ミニホールで部落解放同盟大阪府連合会女性部長の鶴岡弘美さんをお招きし、2.11 集会を開催しました。

京都 YWCA が設立された 1923 年、被差別部落の女性たちも部落差別と女性差別からの解放を求めて各地で婦人水平社を立ち上げました。1871 年の解放令以後、逆に生活苦や排除が進み、部落差別が強化される中、部落の女性たちは学校や職場で浴びる侮辱、低賃金や過酷な労働環境による健康被害、妻や姉妹や母を見下す部落男性との家庭生活を「二重三重の差別と抑圧」「二重三重の鉄鎖」と表現し、声を上げたのです。

しかし、婦人水平社は短命に終わります。背景には運動と家庭の両立の難しさ、運動をリードしたのが比較的裕福で若い高学歴女性で、圧倒的多数の貧困に苦しむ女性を結集できなかったこと、そして水平社と別組織としたことが、「男に対する反抗」とみなされたこともありま

す。活動することになりました。

戦後、水平社は部落解放同盟として再スタートし、女性たちは義務教育の教科書無償化運動に加え、彼女たち自身が学齢期に差別や貧困で文字を学べなかったことから識字活動を進めました。近年は在日やアイヌ、沖縄の女性達とのネットワークを築



き、日本のマイノリティ女性の状況を国内外に訴え、幾重にも交差する差別の解消に取り組んでいます。

最後に、鶴岡さん自身の人生についても伺いました。結婚相手を紹介するとき最初に「相手は同じ立場の人」と伝えたこと、大丈夫、結婚差別は受けないよ、と親を安心させたかったという言葉に胸がすきました。

婦人水平社と YWCA。異なる歩みをとりましたが、両者の見つめる先は昔も今も同じ、ひとりひとりの尊厳が大切にされる社会です。

(今井貴美江)

自立援助ホーム・カルーナ共催講演会 「トラウマインフォームドケアと支援者支援 ～トラウマを負う人と向き合うために～」

京都 YWCA カルーナは 2 月 17 日に関西セミナーハウス活動センターと共催で「トラウマインフォームドケアと支援者支援～トラウマを負う人に向き合うために～」を開催しました。講師の小川恵美子さん(精神保健福祉士、日本学術振興会特別研究員)からトラウマインフォームドケア(TIC)のお話をうかがい、参加者自身の経験や気持ちと結びつけるグループワークを行いました。

トラウマケアというと、診断名がついている人が対象の専門的なものだというイメージを持たれるかもしれませんが、TIC は違います。TIC とは「トラウマについての理解を深め、生活への影響などについて知識を持って関わること」を指し、心にケガを負ったことのある全ての人を対象としています。自分はどんなことにストレスを感じ、その結果どのような症状が現れるのかを理解することで対応策を考えることができ、トラウマの再発防止に繋がると小川さんは話されました。

トラウマ体験が重く自分一人で理解が難しい場合、安

心できる支援者と一緒に整理していくことが必要です。しかしその途中で、支援対象者のトラウマが支援者に影響し、共感疲労や代理性トラウマなどが起こることも少なくありません。これにも脳の構造が関係しており、人間はネガティブな情動に強く反応するため、「支援者自身の問題ではなく、起こっても仕方のないこと」だと理解することが重要とのことでした。

講演の中で小川さんが何度も話されたのは、「安心できる人と一緒にトラウマについて理解していくことの大切さ」でした。京都 YWCA にもさまざまなトラウマ体験をされた方々が来られますが、支援対象者か支援者かに関係なく、全ての人々が安心して過ごすことのできる場所を京都 YWCA で提供し続けたいと思います。

(古川由布子)



自立援助ホーム「カルーナ」新年会 新成人のお祝いとホームカミングデイ

京都 YWCA の自立援助ホーム「カルーナ」設立から 8 年、退所者は 34 名になりました。その中で全員が今なお繋がっているわけではありませんが、半数ほどは現在も関わり、必要に応じてさまざまな相談や生活全般、就労・通院同行等の支援をしています。

2022 年 4 月にオープンした子ども・若者の居場所「Y ここ Kitchen」は退所者が気軽に集える場所の一つでもあります。毎年実施している新年会はカルーナの退所者、入居者の交流の場でもあり、新成人を祝うカルーナのイベントです。今年は新成人 4 名(退所者 1 名、入居者 2 名とそのきょうだい)と退所者 2 名が華やかな晴れ着を着せてもらい、参加者 11 名とスタッフ 5 名の全員で成人のお祝いをすることができました。

コロナが緩和された昨年、ミニホールでの立食が復活し、会員さんから心こもった差し入れを頂いて(お持ち帰りできるほどたくさん頂きました!）、ビンゴゲームやなぞなぞ、カラオケ大会をして、普段あまり交流することのない入居者と退所者が一緒に笑い合う時間は、とても有意義なものでした。そして、毎年恒例の「今年

の抱負宣言」。自分の番が近づくと、そ〜っと部屋を抜け出す子もいますが、スタッフ・参加者共に自分の 1 年の目標を発表します。参加者の目標はどれも「一生懸命、今を生きているんだな」と感じる内容でした。

さまざまな背景を抱え、傷つき、ようやくカルーナにたどり着いた彼女たちが、実家のように安心して帰ってこられる場所として、新年会をこの先も積み重ねていきたいと思うと同時に、毎年ご支援頂いている京都わかさねっと様、京都府共同募金会様、京都 YWCA 会員の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも「カルーナ」をよろしくお願いいたします。

(三上 彩)



新年会へのたくさんの差し入れ



参加者の晴れ着姿

映画紹介 『燃えあがる女性記者たち』



2021年 インド ドキュメンタリー映画 93分
監督・編集・製作：リントウ・トーマス&スシュミト・ゴージェ
原題：Writing With Fire

インドのカースト最下層ダリトの女性たちが地方新聞社「カバル・ラハリヤ」を立ち上げ、動画配信を通じて地域の人々の声を届けている。ダリトの女性はインドの階級差別と家父長制という二重の抑圧に苦しめられ、女性に教育は不要だと学習機会を奪われ、幼児婚、強姦などの暴力に曝されてきた。女性記者たちは、家族の無理解、さまざまな不条理と闘いながら社会の矛盾を隠すことなく発信している。スマホで撮影した動画のYouTube投稿は次第に人々の心を捉え、主流メディアが取り上げない真実を伝えている。危険に晒されながらジャーナリズムの使命に命をかける女性たちの5年間の記録である。



今後のプログラム

◎春のキッズデayout「ガジュマルの樹」

- 日 時：2024年3月27日（水）9：00～16：00
- プログラム：ピザをつくろう、えいごであそぼうなどを予定
- 対 象：小学1～現6年生
- 参加費：2,500円
※プログラム材料費、昼食、おやつ込み
※有料にて延長預かりあり。
- 定 員：20名
- 申込み：京都 YWCA 事務局まで



ご協力ありがとうございました

2023年12月1日から2024年1月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

各指定寄付

*法人支援

吉川文一、中川美佳子、岡佑里子、
日本キリスト教団京都上賀茂教会、
同志社女子高等学校

*100周年記念募金

日月公子、堀部碧、上村愈巳子、
今井貴美江、奥村孝、伊原千晶、
阿部修武、山上義人、林衛、一色吉次、
木俣冬、赤尾陽子、小林聡、
見越あけみ、松田公江、匿名

*クリスマス献金

中村和雄

*親・子育て支援活動委員会

室紀子、匿名

*多文化共生委員会

有田孝子、筒井奈都子、織田雪江、
マーサ・メンセンディーク、飯田修、
宮武美知子、室町教会 CS

*APT

上原正正、筒井奈都子、高山亨、

上内英子、リンパヤラヤ・スプレーニー、
張善花、宇山進、吉村富式、新井史子、
安藤いづみ、岡佑里子、ヘイナ啓子、
ヌヴェール愛徳修道会、
京都・東九条 CAN フォーラム、
宗教法人カトリックノートルダム教育修道女会、
匿名

*あじさい保育園

横川宏美、安藤昌人

*ふれあいの「居場所」事業部活動委員会

宮武美知子、京都府更生保護女性連盟

*自立援助ホーム「カルーナ」

有田佳子、横川宏美、筒井奈都子、
横川美佐子、伊原千晶、宮川道子、
吉村富式、竹岡哲朗、山上義人、
中野かおり、伊藤真一郎、岡佑里子、
横川幸治、榎本愛美、奥村孝、若尾典子、
林衛、村松通子、山本千鶴、井上摩耶子、
岩崎明生、舟木和代、森本純代、
吉村佳代子、伊東真喜子、
ベスタロッツ保育園、日本キリスト教団
京北教会、室町教会オリブの会

「京都 YWCA 100 周年記念募金」

へのご協力をお願い



100 周年を迎えた京都 YWCA は現在「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施しています。ご寄付は以下の目的に充てられます。

- 担い手育成・次世代育成のために
- 保育環境の向上のために
- W・M・ヴォーリス建築「サマリア館」の補修
- 歴史を未来に引き継いでいくために

目 標 額：1,000 万円

(2024 年 1 月 31 日時点 達成額 9,635,777 円)

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募 金 額：個人 1 口 3,000 円

団体・企業 1 口 10,000 円

郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA



オンラインによるご寄付は以下のサイトよりお願いします。
<https://congrant.com/project/kyotoywca/4775>

その他の京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務局に問い合わせ
ていただくか、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

- 1/13：自立援助ホーム「カルーナ」新年会。新成人を含む退所者・利用者参加（本誌 3P 参照）
- 1/20：京都 YWCA あじさい保育園が保護者参加プログラムとして民族楽器ワークショップ開催
- 1/27：京都 YWCA 創立 100 周年記念公開シンポジウム開催（本誌 1P 参照）

- 2/3：にほんご教室「洛楽」が受講生、講師、受講生家族、職員が参加する交流会開催
- 2/17：2.11 集会として「交差する差別と闘う女性達の 100 年 婦人水平社設立 100 年」を開催（本誌 P2 参照）
- 2/24：「ピーター・バラカン DJ ライブ in 京都 # 12 春を待つ」を日本聖公会聖アグネス教会にて開催
- 京都 YWCA 組織再検討チームで組織の運営課題を検討し、会則および定款の改正について継続協議を行っている。

KYOTO YWCA No.579 2024 年 3 月号（3月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上上ル近衛町44

電 話：(075) 431-0351

F A X：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定 価：1 部 50 円

発 行：奇数月 1 日発行